

## 地域と共に、職員と共に

病院長 西俣 寛人



科学の進歩が早く、医療界がいつ頃、具体的にどのように変化していくのか、予見しにくい時代だと思ってます。しかし、変化していく方向、時間を予見して早めに対応しないと急性期病院として運営出来なくなります。

たとえば、癌の治療にはPET-CTが不可欠だと予見して、3年前から準備をし、PET-CTを含めた画像診断センターとして去年スタートしました。現在では癌の診療に必要な検査として7割の患者さまが受診され、3割の方がドックとして利用していただいております。今後ますます癌の治療に必要な画像診断センターになっていくことと思っています。

自分たちの得意分野で地域に貢献するというのが当院の方針です。南風病院の得意分野は急性期医療です。平成7～8年ごろ厚生労働省の方針で、入院医療をできるだけ抑制するという動きが出てきました。そこで「訪問看護ステーションみなみ風」を平成10年に立ち上げました。在宅医療は地域の開業医の先生方へお願いして、そこには南風病院は入り込まない。このように役割を分担してきたことが、地域医療支援病院の承認を取得するのにつながったと思います。地域医療支援病院の承認を取得するという目的が先ではなく、結果として取得できたと考えています。

地域社会が、南風病院に求めているものは、具体的にどういうことかを見極める努力が必要です。地域医療課がアンテナになり、病院運営に必要な情報を集める努力をおこなってます。そうした意見を我々がよく聞くとともに、社会全体の動きがどうかということも頭に入れ、どの方向に病院を運営するかを考えていきます。急性期病院であれば専門分野に特化していくしかなく、特化するにあたって、社会的に評価されている専門医の集団が必要です。専門集団ができれば、そこに特化して専門の医療を行っていくということだと思います。

医療というのは技術です。素人の方にはなかなか理解してもらえないですが…。最新の医療は本に書いてあるから、それどおりにやれば全国同じ医療ができるじゃないかとおっしゃいますが、そうはいきません。本に書いてあるとおりやっても決してできない。そこで、技術の習得が必要です。同じ医療の現場で、長時間一緒に取組まないと技術は身につけません。こうして身につけた技術で最善の医療を施せる病院でありたいと思っています。

南風病院は地域と共に生きる。職員と共に生きる。これが南風病院の組織文化だと考えております。

地域の医療機関や関係各所と連携し、最善の医療を施し続けることができるように尽力して参ります。引き続き旧倍のご高配とご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

Nanpoh Hospital